

白神社：概要

平和大通りと鯉城通りの交差点に位置する白神社は、数世紀前から今日までここに静かに佇んでいます。広島信仰の中心地の1つであるこの神社の存在は、最も古いもので600年前の広島市の地図にも記されています。しかしその歴史は、それよりはるか以前に遡ります。この神社の由来は、広島湾の島々の大きな岩礁が海面に顔を出している部分に白い紙を貼り付けて通過する船舶に座礁の危険を知らせるという行いにあります。この神社の名前にもその歴史が残っています。白神とは「白い神」という意味ですが、「白紙」という言葉と似たように発音されます。

地元の大名であり今日の広島を開拓した毛利輝元（1553–1625）によって、ここに初めて正式な社殿が建てられたのは、1594年のことでした。広島城への南からの進入路を守るためです。毛利家の統治下で広島は成長し、それとともに白神社も規模が大きくなりました。

白神社の秋祭りは、10月28日と29日の夜に毎年行われる、広島市の一大イベントになっています。神社に通じる歩道には食べ物やお祭りゲームの屋台が立ち並び、舞い手が特別な舞台で神楽の神事を奉納します。

周囲には都会の喧騒が広がっていますが、白神社は広島の繁華街の中の静かなオアシス的存在であり続けています。